



島教協

# 《子どもたちのより良き成長のために》 情報報

http://www.kyougikai.org

E-mail  
office@kyougikai.org

〒693-0011 出雲市大津町2214 Tel/Fax:0853(22)7762 代表者 吉田 修 編集人 岡 利行

No.713

## 島教協 第五十九回 定期総会開催

### スローガン 子どもたちのより良き 成長のために

五月二十五日(土)、ビッグハート出雲にて第五十九回島教協定期総会を、多数の代議員・オブザーバーの出席を得て、盛大に執り行いました。

来賓には、新田英夫島根県教育長様、佐々木雄三県議会前議員様、高見康裕県議会議員様、榎野信幸出雲市教育長様、郡司隆文全日教連委員長様、小坂朝之山口県教連事務局長様をお迎えしました。

冒頭、吉田修会長は、「目の前には子どもがいます。全国を行脚して、しつづけの三原則や腰骨を立てる立腰教育を広めた教育哲学者森信三氏は、『われわれ教師たるものの第一のつとめは、何としてもわが教え子たちの幸福をねがい、そのために、多少なりとも役立つような事を、わが教え子のために尽くしてやることだ』という一点においては、いかなる人も根本的には異論はないといってよいでしょう。』とおっしゃいました。これは日々真摯な教育実践を展開している島教協会員の姿に重なりま

す。ただし、今年一月に出された中教審答申の「はじめに」には、『子供のためであればどんな長時間勤務も良しとする、という働き方は、教師という職の崇高な使命感から生まれるものであるが、その中で教師が疲弊していくのであれば、それは子供のためにはならない。』と記されています。あれもこれもではなく、子どもたちの成長につながるより良いものだけを見極める必要があります。



変革を迎える今、大変忙しい日々ではありますが、高い理想と熱い情熱、強い志をもって、また明日からの教育実践に取り組んでいきましょう。」とあいさつをされました。

その後、議長に川島慶三さん(出東小)、記録に宮本有生さん(荒木小)、議事録署名に才木由香さん(平田幼)を選出し、三十年度の総括を報告し、三十年度決算・三十一年度の活動方針活動計画・予算について、慎重に審議していただき、全て原案通り承認されました。

第二号議案「平成三十一年度活動方針」において、スローガンの変更を提案し承認していただきました。

#### 【スローガン変更の理由】

島教協は長い間、「子どもたち」のことを考えた活動が必要であるという理念を、「すべては『子どもたちのために』』というスローガンにして、子どもたちのためになっているかどうかを価値判断の基準にして活動してきました。

しかし、教職員の多忙感が問題になっている。今、これまでのスローガンでは、島教協の会員は、「子どもたちのために」であれば勤務時間を考えずに長時間勤務で働くという間違った捉え方をされる疑念が生じてきました。言うまでもなく、教職員は、授業はもちろんのこと、日々の活動は「子どもたちのために」に行っており、島教協は、身を粉にしてさらに働かなければならないとは申してはいたしません。はじめに申しましたように、島教協は日頃から「子どもたち」のことを考えた活動を繰り返してまいります。

そこで、島教協のスローガンを、島教協の活動内容をよりわかりやすく理解していただくために変更させていただきます。

職員団体としては、会員がたくさん所属していることが重要です。学校・幼稚園代表の方はもとより会員お一人お一人が、一人でも多くの方に会員になっていただきますよう、ご協力をお願いいたします。



### 来賓祝辞

島根県教育長 新田英夫 様



島教協の皆様には、それぞれの学校において、日々子どもたち一人一人と向き合い、島根らしい教育の実践に心血を注いでいただいておりますことに対しまして、深く敬意を表しますとともに、心より感謝申し上げます。

島根県教育委員会の取組につきまして二点ご紹介させていただきますと存じます。

「教育の魅力化」の取組は、新しい学習指導要領とも方向性を同じくするものであると考えています。島根県ではこれまでも学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力を高め、「ふるさと島根」への愛着や誇りを育む「ふるさと教育」が進められてきました。皆様にはこれまでも「ふるさと教育」の蓄積を、「教育の魅力化」に十分生かしていただき、魅力ある学校づくりにつながっていただきたいと思います。

二点目は、「働き方改革」についてでございます。県教育委員会では、「働き方改革プラン」を策定いたしました。今年度から各市町村教育委員会と連携してこのプランの実現を目指しております。この改革のためには、教員の皆様一人一人が自らの働き方を見直し、できることから一つ一つ着実に進めていただくこともたいへん重要であると考えております。教員の皆様一人一人の活力が、子どもたちに魅力ある教育を提供する力の源泉になっていきます。健康で活力にあふれ、よりよい教育を持続的にこなしていただくためにも、皆様とともに、「働き方改革」にしっかりと取り組んでまいります。

島教協の皆様には、学校現場の事情や課題をお聞かせいただくなど、わたくしどもと双方のコミュニケーションを図りながら、よりよい島根の教育の充実を目指していただきたいと思います。

島根県議会 前議員 佐々木雄三 様



長年この総会にご案内をいただき、皆さん方の活動もつづきにお聞かせをいただいできました。あの全日教連の歌にもございます、まさに愛し子のために日々活動をされている皆様は、日本の将来の国づくりにも大きな役割を果たささるうと思えます。皆様の活動に期待をしております。

どうぞこれからもひたむきに、たゆまず活動を続けていただきながら、将来のこのふるさと、あるいは日本を支える人材を育てていただきたいというふうに思っていますし、そうした役割使命を果たしていただきますように、心から願っています。

島根県議会議員 高見康裕 様



皆様にはこれまで本当に、学校の職務でもたいへんお忙しい中、更にお時間を割かれて、子どものための教育がなされるために日々ご尽力されていること、本当に一県民として、また一保護者として、ただただ頭が下がる思いで、いつも見させていただいております。いま教育行政も皆様方の声を受けて、きょうは県の教育長も市の教育長もおいででございますけど、一生懸命動いているところでございます。

皆様方の声の中で、今まで教育行政に届いていなかったものもたくさんあると思います。そういった声の一つでも届いて、子どもたちのための教育が実現するよう、県議会としても全力で頑張ってください。今困っているんだとか、「こういふふうにならないうのか」とか、そういう声をどんどんお寄せいただきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

出雲市教育長 槇野信幸 様



皆さんの学校・幼稚園では、働き方改革が進んでいるでしょうか。出雲市内では昨年度から取り組みを始め、今年度ははじめて通年で実施していくということになります。多忙化の解消には、教職員定数を増やすことが最も確実ですが、財政の問題から実現は容易ではありません。定数増の要望は引き続きおこなってまいります。せつかくの流れてもありませんので、私たちにできることは、取り組んでいかなければなりません。教育委員会と学校が力を合わせて、また教職員協議会からの要望などを踏まえて、少しずつでも改善を進めていきたいというふうに思っています。

一方こうしたトピックス的な課題のみならず、特別支援教育、不登校対策、いじめ問題対策など普遍的な課題もたくさんありまして、これらが複雑・多様化・深刻化する傾向にあります。

こうした中、皆様方におかれましては、それぞれの学校における日々の教育活動はもとより、島根県教職員協議会の活動などを通して熱心に研究と実践に取り組まれ、幼稚園を含む学校教育を推進する中心的な存在として、ご活躍いただいていることに心から敬意を表します。こうした皆様の情熱と熱心な取り組みがあれば、教育情勢がどのように変わっていくとも、子どもたちのためによりよい教育を研究・実践していくものと思えます。私たち行政も引き続き、皆様との連携・協働のもと、あらゆる制度変更や教育課題に取り組んでいきたいと思っております。今後ともご理解とご協力を、よろしくお願い申し上げます。

全日教連委員長 郡司隆文 様

鳥教協の皆様には、平素より全日教連の諸活動に対し、格別なるご理解ご協力を賜り、この場をお借りいたしまして厚く御礼申し上げます。また今年度は、教育シンポジウム鳥根を開催するに当たり、重ねていろいろと協力賜りますことを、御礼申し上げます。

全日教連は、学校における働き方改革の一步一步が先生方一人お一人の持つておられる教育専門職とし

ての情熱や技術や経験を十分に発揮できるものでなければならぬと考えます。学校現場の声を踏まえ、引き続き関係機関に粘り強く訴えてまいります。



教職員数の充実を始めとする、豊かな教育環境が達成される中でこそ、全日教連と鳥教協に集う教育専門職である私たちは、自らの資質・能力を磨き、子どもたちと向き合い、我が国の将来を担う子どもたちのための教育によりいっそう邁進することができます。全日教連は、教職員の代表として、学校現場の会員の皆様のお声を、思いを届けてまいります。そして、「美しい日本人の心を育てる」という理念を共有する鳥教協と手を携え、日本の教育正常化の道を前進いたします。

今後とも鳥教協が、鳥根県のみならず我が国の教育振興のためにいっそうご尽力されますことをご期待申し上げます。

山口県教連事務局長 小坂 朝之 様



いま働き方改革の問題として、学校の業務量が多いとか、保護者対応が大変だとか、いろいろなエレメントがありますけれども、やはり今学校を支える中堅の人間が不足しています。だから、五十代後半の人間が頑張らないといけません。もう頑張れる年ではないのですよね。鳥根県も、新しい人を、若い人を育てて、職員団体の会員としてしっかり迎えて、学校の活性化というのを図っていくしかないのかなと思います。なかなか新しい会員を集めるのは難しいですけど、わたくし最近事務局長という立場になって、いろいろな会の中で皆さんに会員勧誘の方法を話していますので、それをもとに紹介します。

学校でコーヒーとかお菓子をかうための学年の親睦会とか職員親睦会とかありますが、お金を払わないでコーヒーやお菓子を飲んだり食べたりする行為と、教職員団体に入らないで、いろいろな条件改正等の恩恵を受けるのと、これは同じことなんじゃないか。だからちゃんと鳥根県教職員協議会に入らないといけないよ、というふうな誘いかたをご提案をさせていただきます。

これからも力を合わせて頑張ってくださいませ。